

安全安心の信州を目指して

第8編 地域の暮らし拝聴

砂防事業への想いや地域の暮らしについて伺いました

小谷村下里瀬地区

平成27年8月21日 会場:下里瀬基幹センター



維持管理し易い工夫がなされた堂の沢農業用取水施設

- ・下里瀬は13戸の集落ではじまり宿場や舟着場、養蚕などで賑わい、姫川に堤防が建設されてからは水田が盛んに行われた地域。
- ・下里瀬には5本もの沢があり地区全域が土砂災害警戒区域の中にある。



地域の暮らしについて拝聴

H7年7月
山腹崩壊

被災した
福祉施設

堂の沢
取水施設

至糸魚川市

至白馬村

国道148号

下里瀬地区

姫川 →



H7年に山腹崩壊した小雪倉沢周辺

- ・平成7年7月の豪雨災害では開設後わずか10日ばかりの福祉施設が被災してしまったほか、地区全員が避難した。
- ・背後に迫る山林は木炭づくりに利用。一方で雪崩に苦しめられてきた地域。樹木がある方が雪崩の抑制につながる実感がある。

Image © 2015 DigitalGlobe



Image © 2015 DigitalGlobe
Image Landsat
Data Japan Hydrographic Association

Google earth

砂防事業への想いや地域の暮らしについて伺いました

小谷村中谷地区

新潟県糸魚川市

姫川

- ・外沢集落は地すべりにより戦後間もなく集落移転した。
- ・清水山地区など地すべりの影響が家屋に及ぶと中谷地区皆で協力しあい、曳家移転などを繰り返してきた。その結果現在は危険な場所から外れている。

清水山地すべり

八方岩

外沢

清水山

中谷川

- ・我々はここが一番住み心地がいいと思っている。地域の良さをどのように発信していくか考えている。
- ・くるみの木が多いところは地すべりが発生しやすい。
- ・明才堰を明治時代に築いて農業用水に使ってきた。耳尾沢の上流に石碑がある。

長野県北安曇郡小谷村

Image © 2015 DigitalGlobe
© 2015 ZENRIN

Data Japan Hydrographic Association

平成27年8月21日 会場: やまつばき N

清水山地すべり



H27.4.18村道を塞いだ地すべり(L30m,W30m)



地すべりと向き合う地域の暮らしについて拝聴

Google earth

砂防事業への想いや地域の暮らしについて伺いました

平成27年6月4日 会場:小胡桃公民館

やきゅう 小胡桃沢
松本市矢久地区 小胡桃沢

松本市中学校 会田中

- ・小胡桃沢（こくるみ沢）の名前の由来は武田信玄に追われた人々がこの地で農業を試みた（こころみた）ことからと言われている
- ・戦中はクリの木が植生しており、JR篠ノ井線の枕木に使用された
- 143・昭和34年台風7号災害の復旧には約5年要した
- ・降雨がないとすぐに渇水になってしまうが、雨が振り続けると土砂が出るのではないかと心配になる

第1避難所
(矢久農業生活改善施設)

第1避難所
(小胡桃農業生活改善施設)



地域の災害の歴史等を拝聴



平成25年11月斜面崩壊により溪床に土砂が流入
松本市が利水機能を確保



山腹崩壊跡地に建立された祠(文政13年)
文政の時代は全国的に水害が多発していたと言われている

Google map

砂防事業への想いや地域の暮らしについて伺いました

しづなん まえがさわ
池田町 渋南地区 前ヶ沢



地域の歴史や土地利用について拝聴



- ・ 渋南地区は山沿いの斜面地に住宅建設が進むようになっている。
- ・ 山間部は桑畑、田んぼ等として使用されていた。わさび田になっていたところもあった。

平成27年6月4日 会場: 渋南集落センター



石積堰堤の上流にある石碑(記念碑)
大正12年~昭和2年頃、内務省施工と読める。

要配慮者利用施設

- ・ 山崩れが起きやすい場所で、過去には昭和60年頃、平成16年、平成23年に災害が発生している。
- ・ 周辺溪流でも同様の土砂災害が発生した歴史がある。
- ・ 流域上流には石積堰堤2基と記念碑があり、これまでの災害や対策の歴史を物語っている。
- ・ 森林整備については、協議会を立ち上げ、地区住民ほとんどが加入している。

避難地(クラフトパーク)



上流にある石積堰堤
昔は水が溜まっていたとのこと

Google map

砂防事業への想いや地域の暮らしについて伺いました

しもむろが

おやしきのさわ

平成27年6月15日 会場:下室賀コミュニティーセンター

上田市下室賀地区 御屋敷の沢



地元自治会の方々と現地で砂防事業計画について確認

- ・ 周辺（室賀地区）は土石流や急傾斜の危険箇所が多い。
- ・ 昭和58年頃災害があり、農地や保育園が被害をうけた。数年に一度は豪雨等により土砂流出が発生している。
- ・ 高齢化が進んでいる地区であり、昨年より自主防災訓練を開始した。
- ・ 昭和30年代までは上流の松林を活用しており財産区になっていた。
- ・ マツクイ虫被害の倒木処分が課題。
- ・ 室賀川との合流点は上堰の取入口に位置している。
- ・ 周辺溪流での整備が進んだので、当溪流も順次整備を進めてほしいとの要望がある。

(一)真田新田線

要配慮者利用施設



下流は流路工(三面張)が整備されている

上手組集会所



溪流内には倒木が多くあり、安全面から速やかな搬出が課題となっているとのこと